

保護者が繋がる「PTA進路座談会」、生徒主体の「エコキヤップ運動」

取組概要

- ・保護者の横の繋がりを重視したPTA進路座談会を実施。専門家講演と意見交換で卒業後の準備を学び、活発交流が生まれた。
- ・生徒会活動の社会と繋がるエコキヤップ回収を支援している。

取り組みの詳細

保護者が繋がる「PTA進路座談会」

本校では、PTA進路対策部の活動の一つとして、「卒業生保護者を囲んでの座談会」を実施してきた。経験を積む卒業生保護者の話を直接聞けることは有意義であったが、近年は生徒の実態の多様化や重度化に対応できる保護者を確保することが難しかった。そこで、「保護者の横の繋がりを作る」ことを大きな目的にし、そこに専門家の講演を組み合わせることで、卒業後を見据えて今から準備しておくことや考えておくことを、保護者同士で意見交換をしながら学んでいく形式に変更した。

時間が足りなくなるほど活発な座談会となり、保護者同士の繋がりや連携ができるよかったですとの感想が聞かれた。講師の方からは、卒業後を見据え、子供の自立のために親はなるべく子供を手元から離すこと、との助言をいただいた。



生徒主体の「エコキヤップ運動」

生徒会を中心に、エコキヤップを回収し業者へ提出している。各家庭で集められたペットボトルのキャップを、生徒が学習の一環で回収活動を行い、生徒会本部役員が業者に回収依頼の電話をかけ、引き取りに来もらっている。

その業者も本校の卒業生であり、学校での学びが社会に出てからも生かされている。



成果

- ・保護者同士の繋がりや連携が深まった。
- ・個別具体的な助言が、卒業後に生かせる内容であり、勉強になった。
- ・以上のような成果を共有できる座談会形式を提案することができた。

課題や今後の取り組み

- ・なるべく多くの保護者が参加しやすい内容や時間帯の工夫。
- ・卒業後も保護者同士が繋がっていくための工夫。
- ・限定YouTube配信による情報共有。

その他の取り組み紹介

- ・廃品回収活動は年4回行い、段ボール、古紙、アルミ缶など多くの回収物を業者に依頼している。
- ・学校行事では、二高祭（文化祭）において初めて「PTAバザー」を行った。売上金をPTA会費に戻り、生徒の学びにつながる物品購入等に利用する。

卒業後の生活を見据え、施設見学や座談会を実施し、自立に向けた情報収集を行っている。

生徒自身が回収活動を行う「エコキヤップ運動」に協力している。

基礎情報

団体名

群馬県立

二葉高等特別支援学校PTA

全校児童・生徒数

38名

学校の特徴

昭和25年に群馬整肢療護園から始まり、昭和34年に群馬県に移管、その後肢体不自由の生徒を対象とした高等部単独の養護学校として平成12年に開校、平成27年に校名を「群馬県立二葉高等特別支援学校」とした。

組織構成

【組織】全家庭がPTAに入会し、会長以外の保護者全員が専門部に所属している。

(1) 本部役員 (P6名/T4名) で、2学年の保護者が担当している。

- ・会長1名 (P1)
- ・副会長3名 (P2・T1)
- ・書記2名 (P1・T1)
- ・会計2名 (P1・T1)
- ・会計監査2名 (P1・T1)
- ・相談役 (校長)

(2) 専門部は2つあり、副会長が部長を兼ね、前年度副会長が副部長を担っている。

- ・文化広報部
- ・進路対策部